

事業名

福島とつながる種まきプロジェクト

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200 字以上～300 字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>・国立市の農業者・商業者の支援を得て、国立市在住の避難者の就労の機会を提供することを目標にしたが就労希望者と出会うことがなかった。しかし就労せずとも毎日に近く「てくてく農園」の手入れを仕事のようにしてくれた方もいて、生活にはりを与えることを提供はできたし、農地やまた種苗を無料で分けてくださる農業者や住民もいて支援の気持ちを感じることはできた。</p> <p>・福島子ども・生徒たちの休息・保養・学習の場を提供することは年1回通算2回実施した。</p> <p>・「くにたちマルシェを実現し、国立市行政・農業関係者・商業関係者・教育関係者・市民とが、農業や商業の活性化を図り街づくりとともにすすめていくための、関係性作りのきっかけを、福島支援を通して作った。</p>	4
2	市民性	<p>「てくてく農園」の場所のよさもあり多くの市民の目に触れ、福島支援活動を可視化することができたことで多くの市民からの共感・賛同・支援を受けることができ、予想外に市民の方たちからの寄付・カンパをいただくことができた。</p> <p>畑を一緒に耕すことで協力支援になるならと、畑作業に熱心に通ってくれる市民の方もいたり、種苗を無料でくださる方もいた。また畑には水道がなく水汲みが大変なのを見て隣の家の方が水道使用をさせて下さったり、時間のある時に来て草取りなどをして下さった方もいらした。</p> <p>口には出さなくても気持ちとして福島支援の思いで見えて下さった市民のみなさんに守られてこの事業をトラブルもなく継続することができたと思う。</p>	4
3	波及効果	<p>被災者の具体的、現実的な、生活再建に結びつく悩みと課題に向き合いたいと考えたがそこまでの関係性はこれまでに事業では作れなかった。しかし次世代育成を農業・商業・教育を通して行事業としての小高高校生招待を2回行うことができ、生徒の間にその波及効果はあったと思われる。小高総業高校商業研究部の発表が全国大会にまで進むことができた自信の幾ばくかを支えたのではないだろうか。また新たなエネルギー開発の技術や物流のあり方、コミュニティのあり方の指針を見出すためのヒントも諸活動の関係の中から見出せる可能性</p>	3

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

		を感じた。また教育機関としての大学をより地域に開き、市民と協働で事業を推進する大学作りの希望を見出した。またその場を活用し高校生の教育活動の一環としての宿泊研修を実現でき、教育機関どおしを市民がつなぐ役割を果たすことができた。大学や高校にも波及効果があった。	
4	継続性	この事業終了後も、10年以上の規模で継続していく構想である。被災者、被災地の復興は原発事故の影響で相当長期間にわたると思われる。そこには人とのつながりが必須であり、行政的援助も必要となる。行政、地域在住者、勤務者で協議体が構成されているので、それぞれの能力・特色をいかした役割分担をすることにより、継続的かつ有効な支援が可能となる。そうした可能性を見出す関係性の「種まき」は相当行ったし少しずつ芽が出てきており、まさしくこれからが本番という段階を迎えた。継続する、できる根拠をこの1年3か月で作ったので今後の活動により実を結ばせたい。	
5	マルチステークホルダー・プロセス	団体結成時の構成団体との関係性の構築が徐々に進んでおり、事業やイベントを実施するたびにその関係性は深まってきている。それぞれの持つ力と持ち味を生かした連携や協働の事業は内容のあるものへと進化してきた。この関係性をさらにしっかりと結び、息長い内容のある事業展開を推進していきたい。行政側があまりに多忙で内容的な連携までできたといえないのが残念だが、今後の課題としてできるところからやっていきたい。	4

合計点

15

ランク

A